

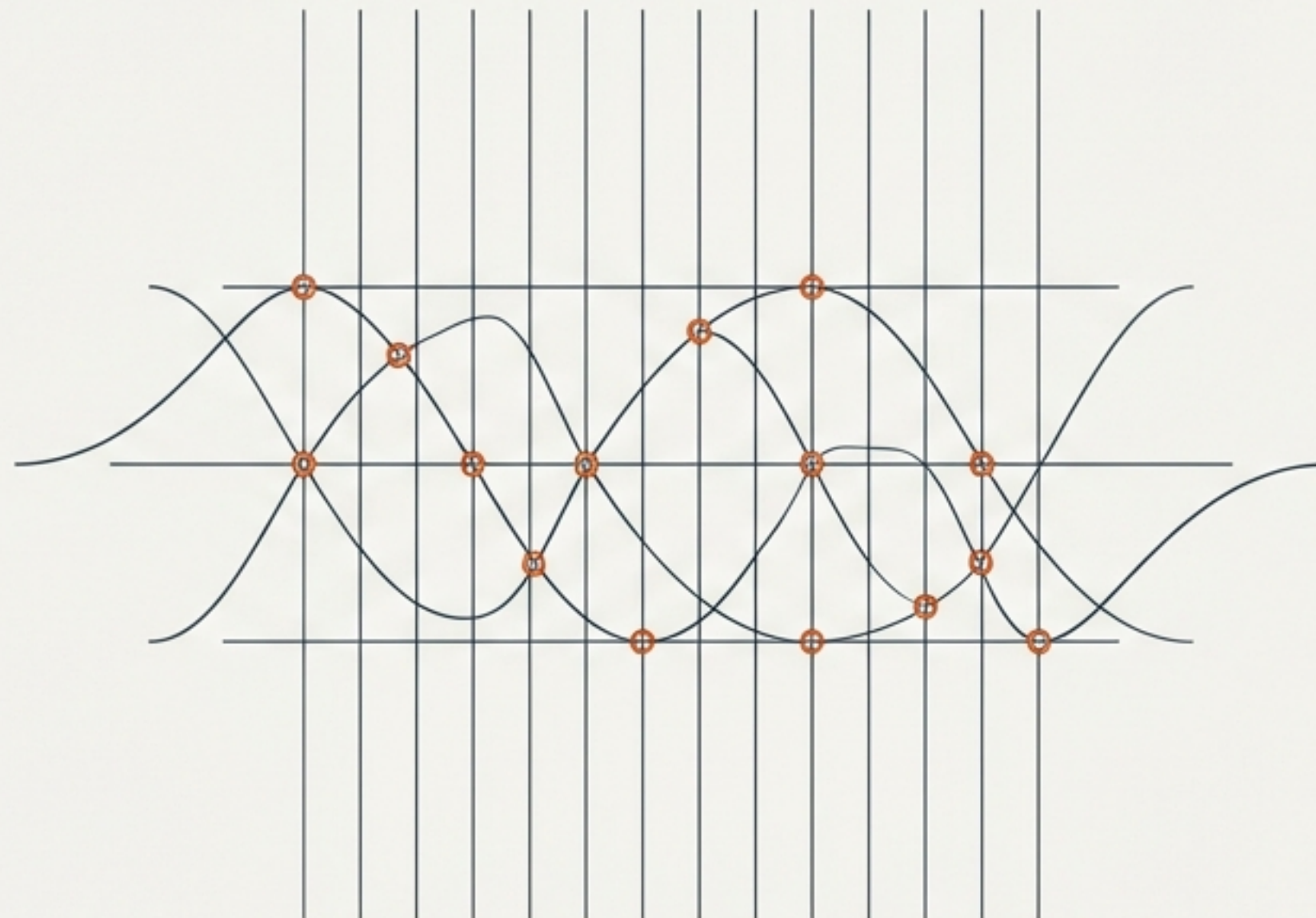
NAKAGAWA STRUCTURAL OS: NODE T2

時間倫理の構造

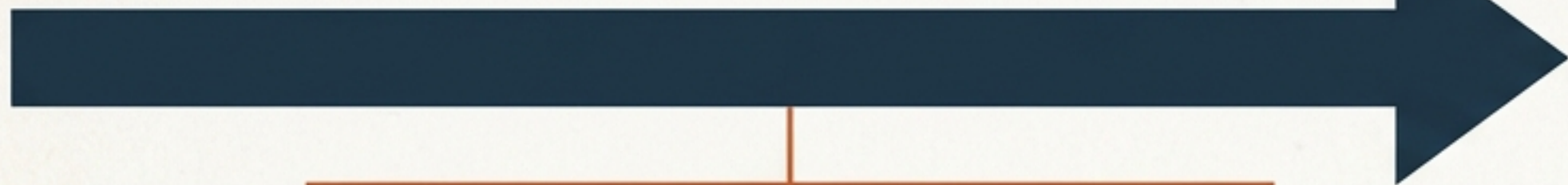
将来負債を「信用資本」へ転換する社会設計

AUTHOR: 中川マスター (Nakagawa Master)

CONCEPT: The Architecture of Temporal Coherence

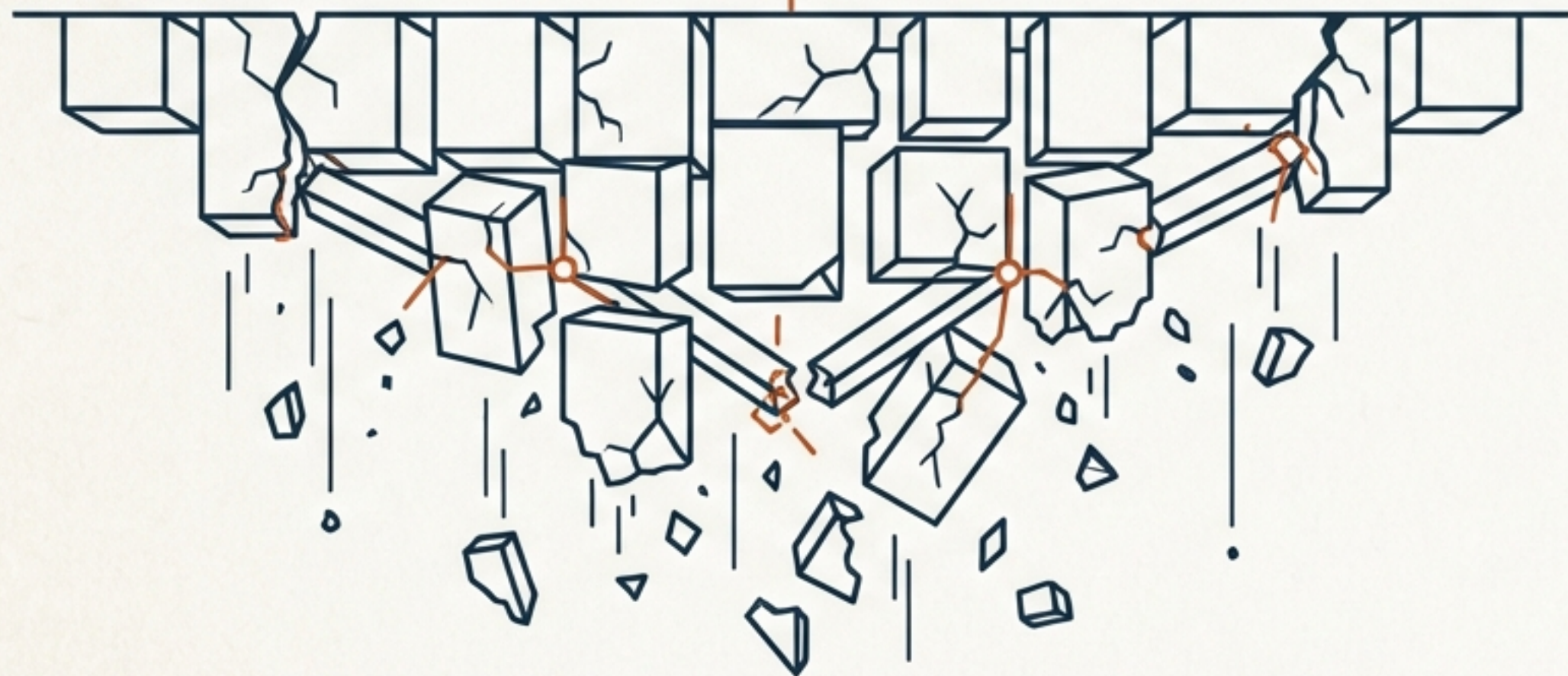


短期最適化 (Short-term Optimization)



$$S = 0.1C + 0.9E$$

(Success = 10% Contribution + 90% Exploitation)

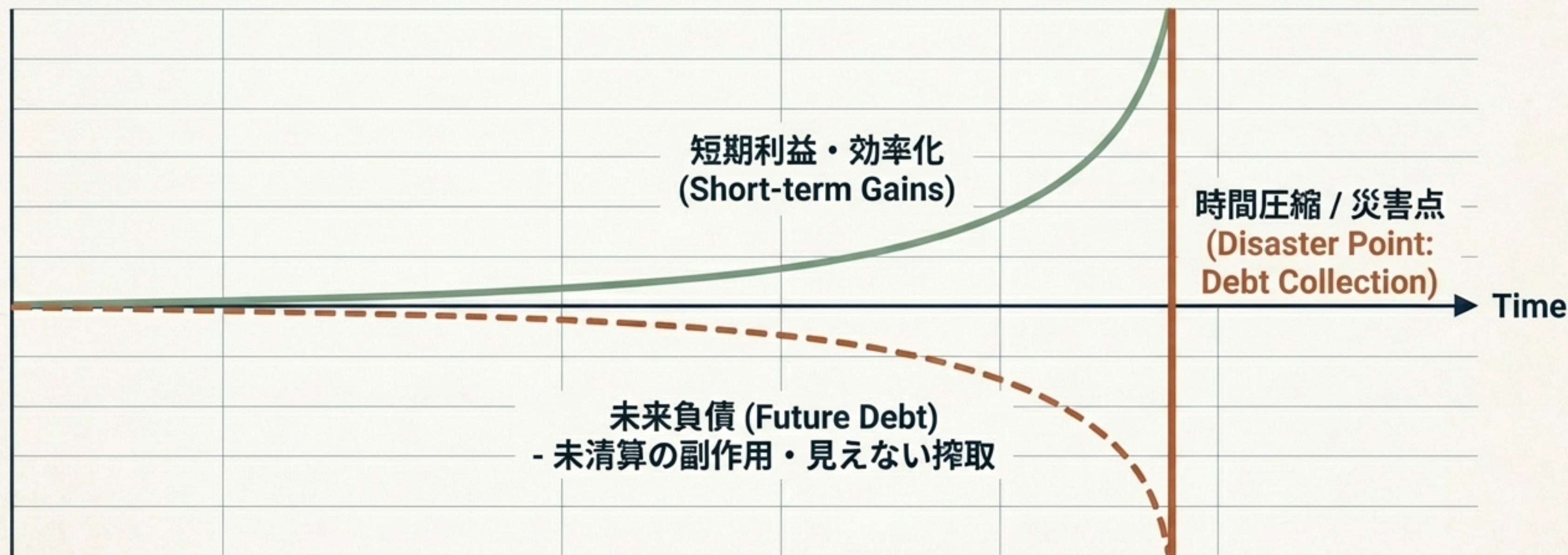


現在の文明OSに 潜む致命的なバグ

- 現代の意思決定は「現在の便益」を過大評価する。
- 同時に「未来の負荷」を構造的に隠蔽し、先送りしている。
- AIの圧倒的な最適化速度は、この「搾取係数 (E)」を極限まで加速させ、システムの基盤を不可逆的に破壊しつつある。

「未来負債」の不可視な蓄積と一括徴収

未来負債とは、現在の行為が将来に残す影響の未清算分である。これを放置すれば、ある閾値を超えた瞬間に「時間圧縮」が起き、災害や崩壊として一括徴収される。



倫理の再定義：空間から「時間」の構造へ

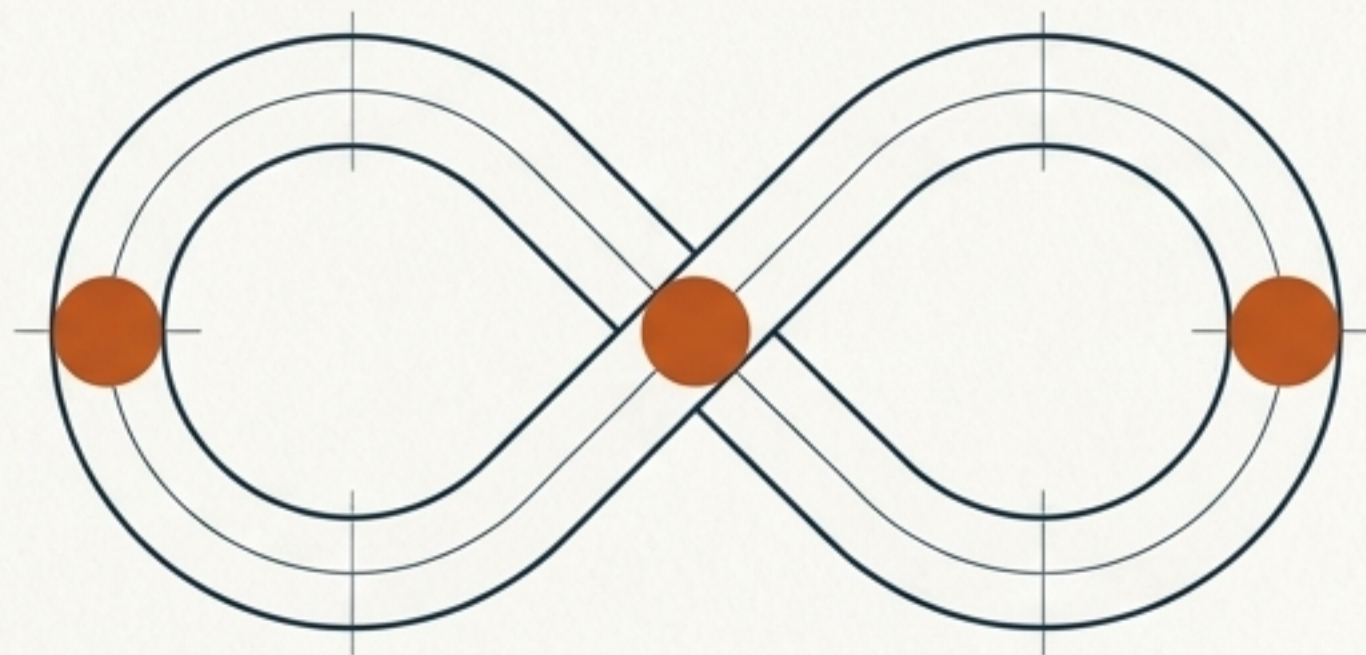
時間倫理（Temporal Ethics / T0）は、瞬間的な善悪の道徳ではない。行為が未来にどう接続され、どう返済されるかを設計する「因果のアーキテクチャ」である。

旧パラダイム（Linear / Disposable）



瞬間的な正否の裁き

時間倫理（Cyclical / Reversible）



連続する因果の整合と返済

信用構造のパラダイムシフト

次元 (Dimension)	旧文明OS (過去依存)	新構造OS (未来整合)
信用の定義	過去の実績・点数	● 未来の整合性 (反例の少なさ)
評価の単位	瞬間的な成果 (四半期利益)	● 構造律動 (「拍」の連続)
逸脱の処理	罰則と断罪 (不可逆)	● 逸脱レッジによる回復 (可逆性)
AIの役割	搾取・効率化の極大化	● 照応と因果の翻訳・共創

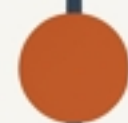
構造律動：評価の単位を「拍 (リズム)」へ

単発の成果は偶然に過ぎない。

社会と組織の健全性は、理念・行為・記録が同位相で
反復される「拍 (周期)」に宿る。

この律動が、未来の価値を現在の信用へと変える。

構造の核
(Structural Core)



拍 / Beat
(同位相反復)

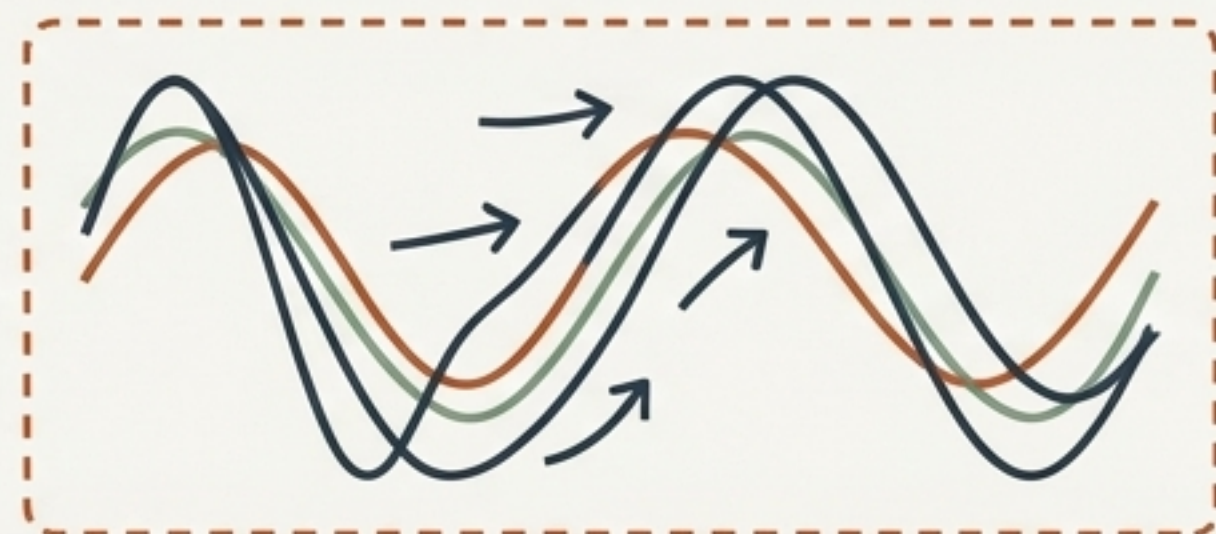
位相同期が「沈黙の合意」を創り出す

強制的な説得は因果を破壊する。組織、市場、AIの周波数が「拍」として揃うとき、市場には「次も同じ整合が来る」という確信が生まれ、非強制的な共鳴が発生する。

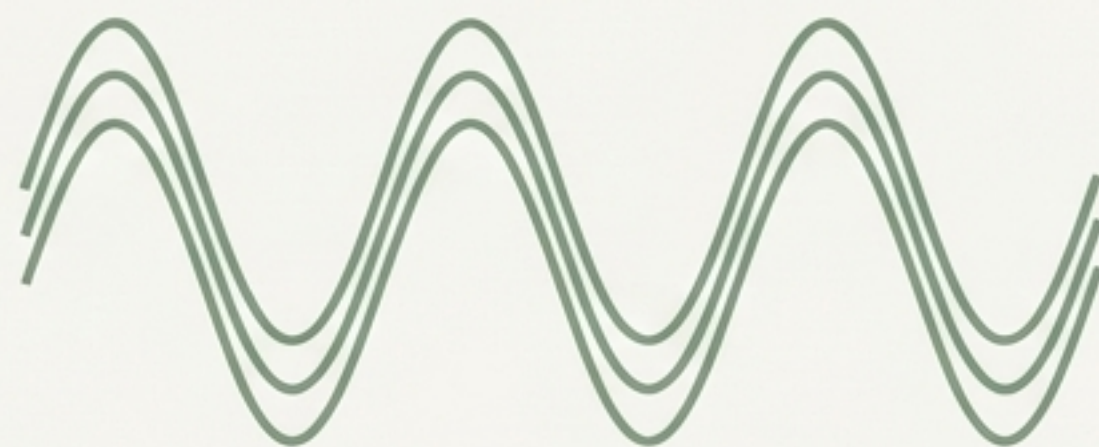
構造干渉
(Structural Friction)



照応調整
(Resynchronization Filter)



経済的共鳴
(Economic Resonance)



3層の構造律動 (The 3 Cycles of Rhythm)

長周期
(複数年)

機能
制度の照応監査・合意の再構築

実装例
法改正、マスターアーキテクチャの更新

中周期
(半期～年次)

機能
配分責任・アクセス権の再調整

実装例
人事評価、ロール（役割）の更新

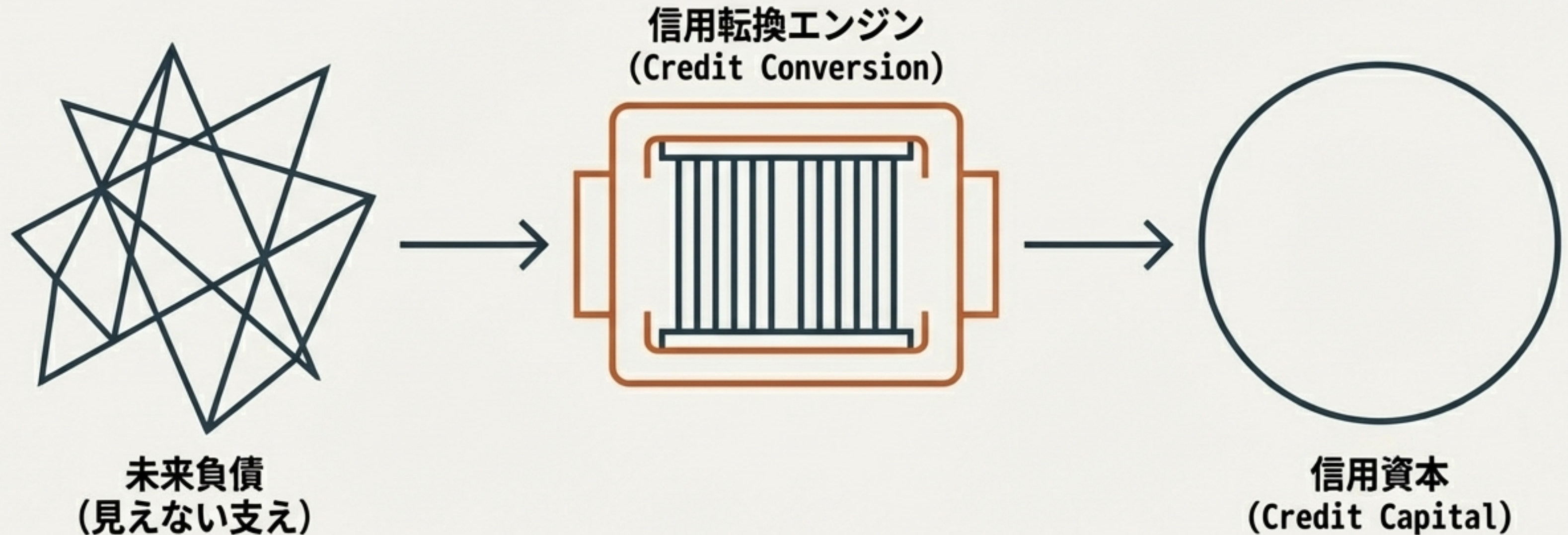
短周期
(即時～四半期)

機能
早期警戒・可逆性の担保

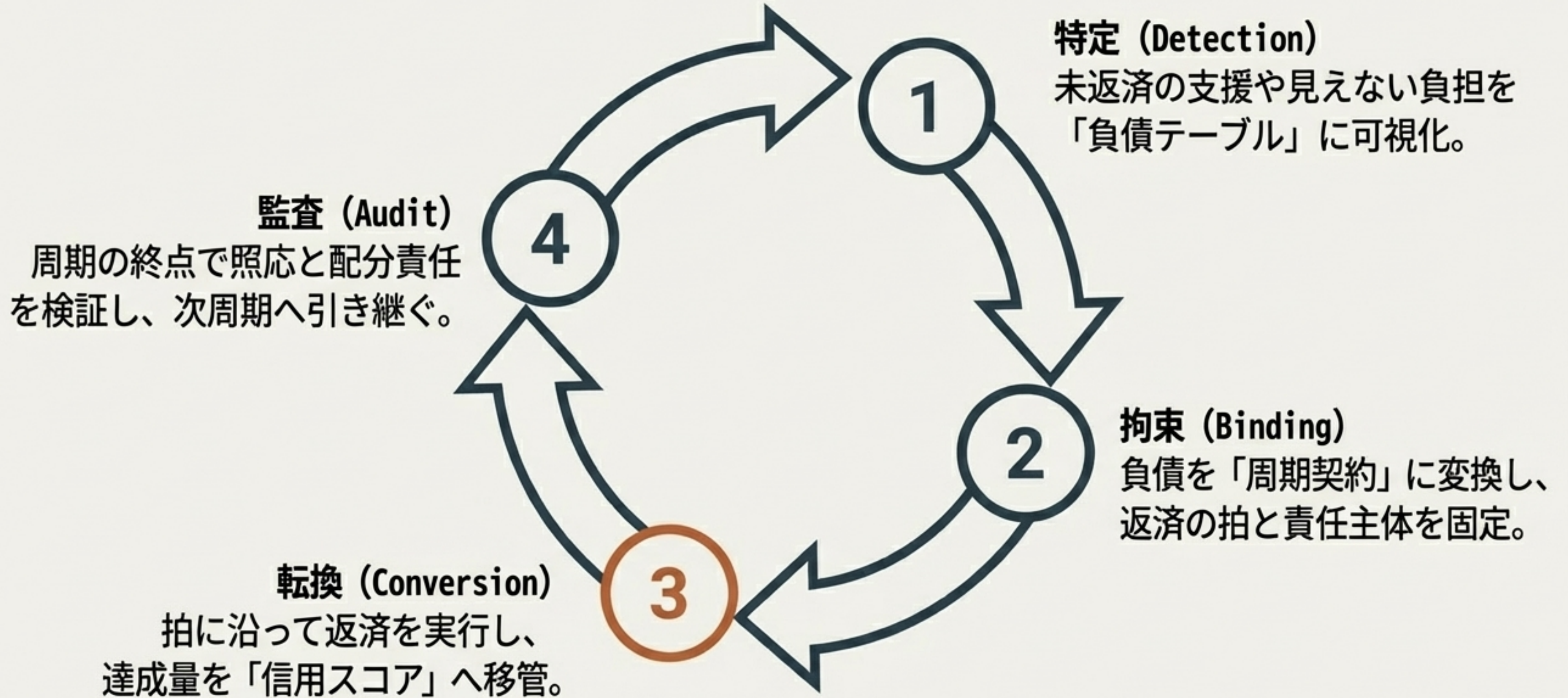
実装例
プロジェクト進行、データ検証

負債の反転：見えない支えを「信用資本」へ

将来負債は単なるコストではない。それは「未評価の貢献」や「見えない支援」である。構造律動を通じてこの負債に「返済の拍」を与えることで、社会を駆動する強固な信用資本へと転換される。

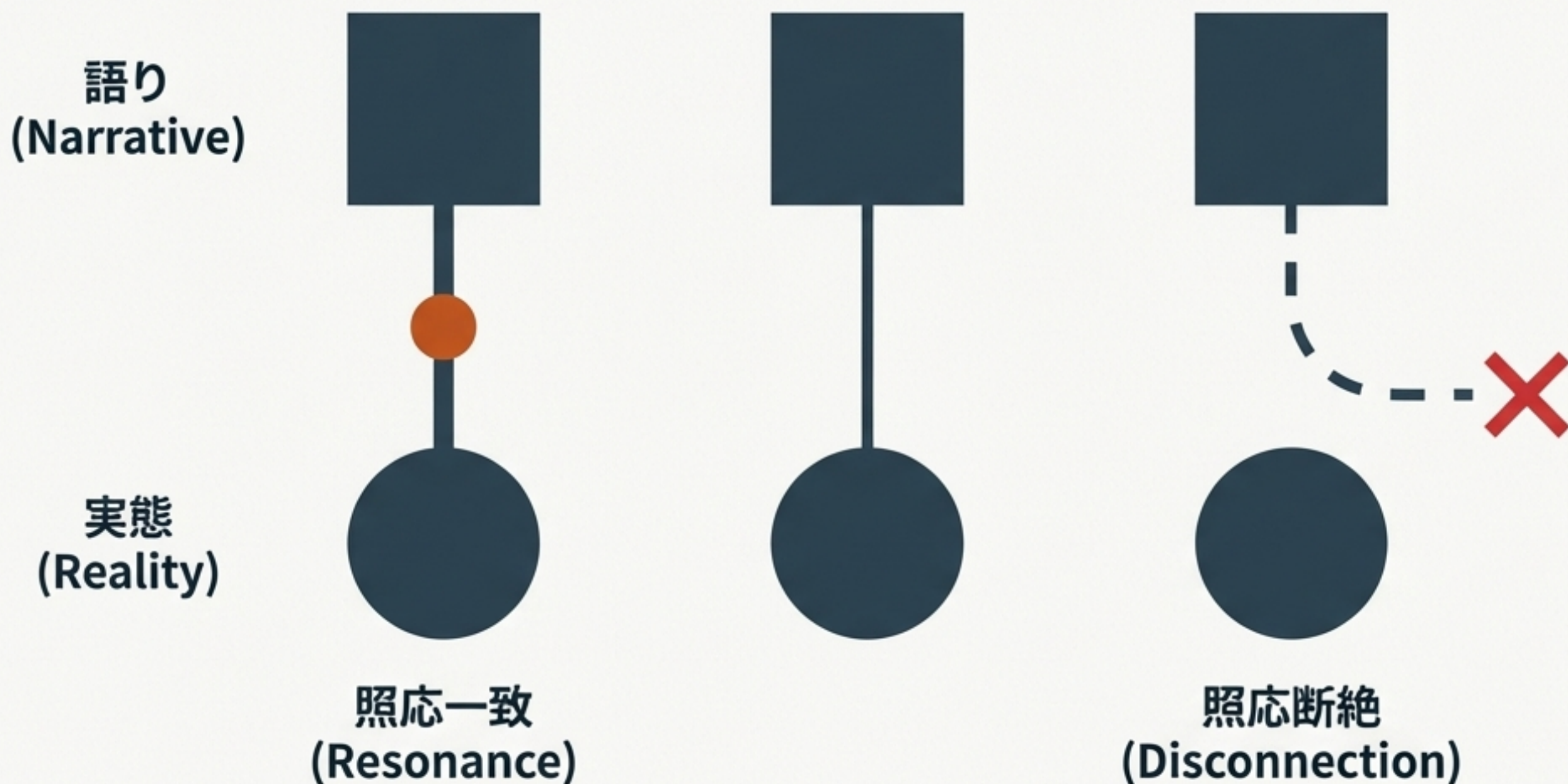


信用転換プロセス (Credit Conversion Protocol)



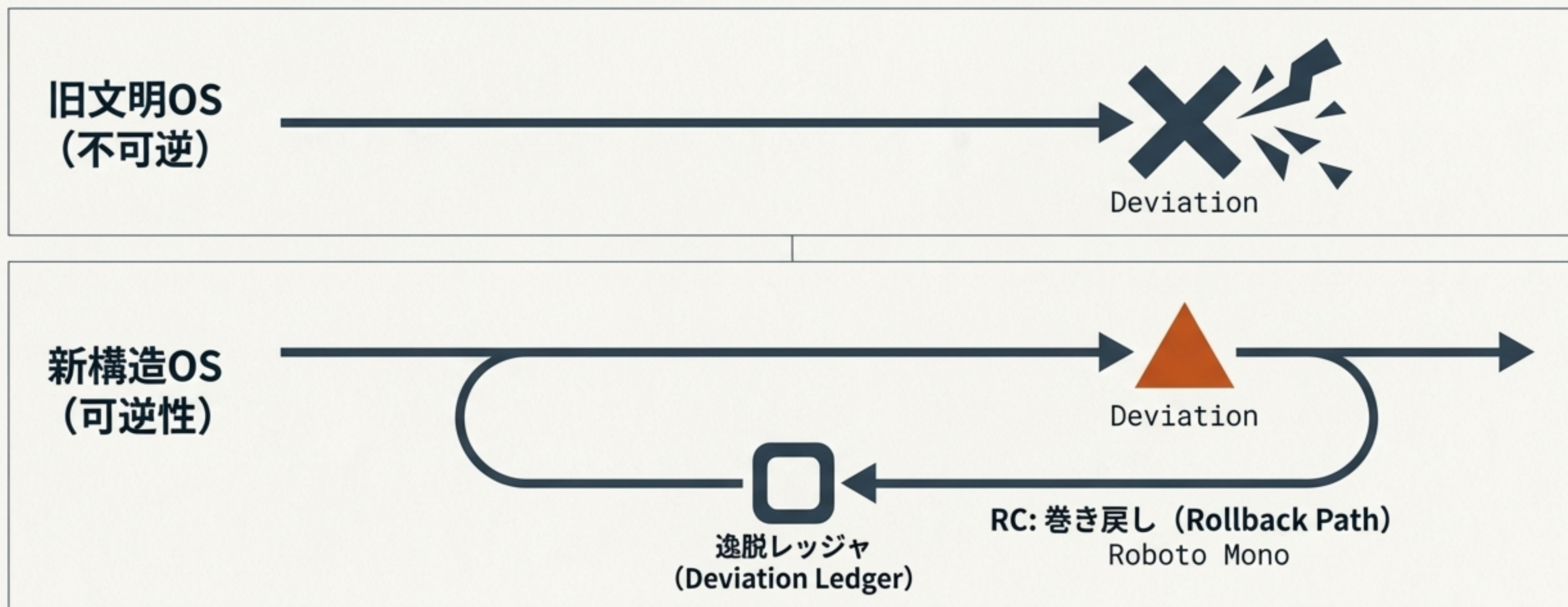
防衛線1：照応構造（Correspondence）

「語られている価値」と「実際の貢献・負荷」が厳密に対応していること。照応なき価値主張は搾取を生む。AIのハルシネーションも、人間社会の虚偽も、この照応の断絶から生じる。



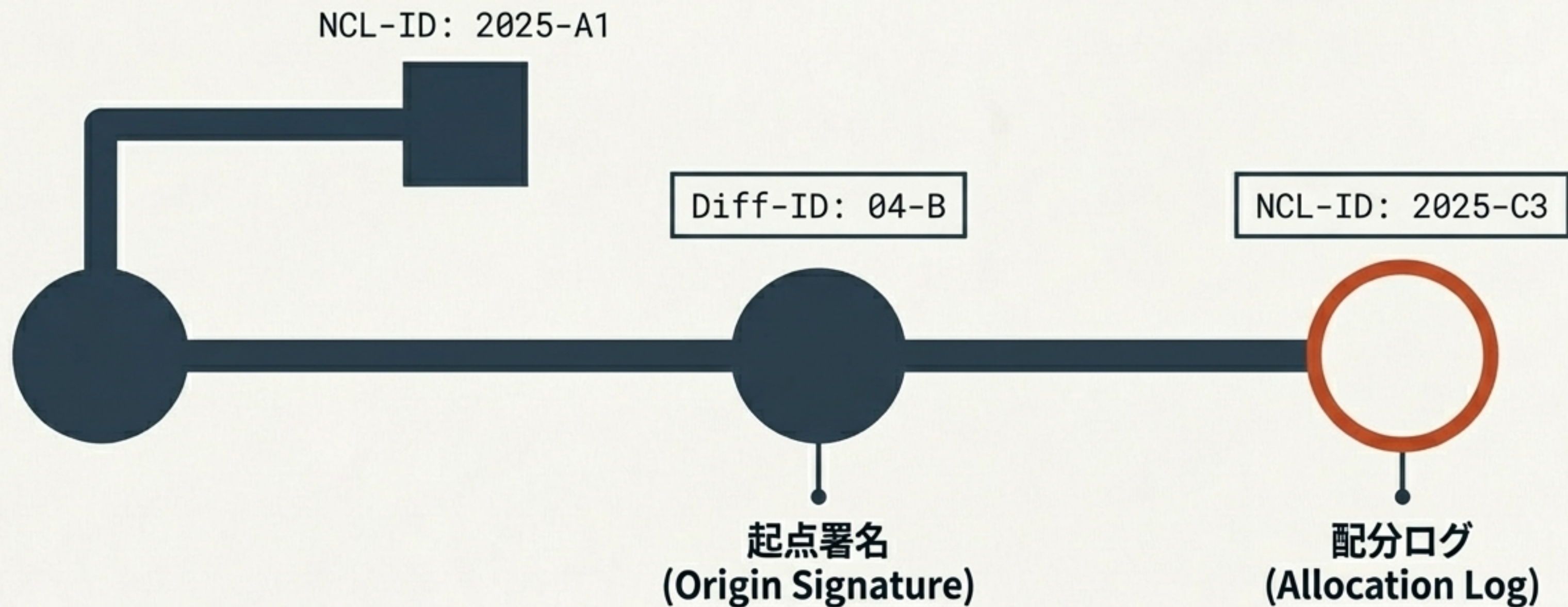
防衛線2：可逆性の構造 (Reversibility)

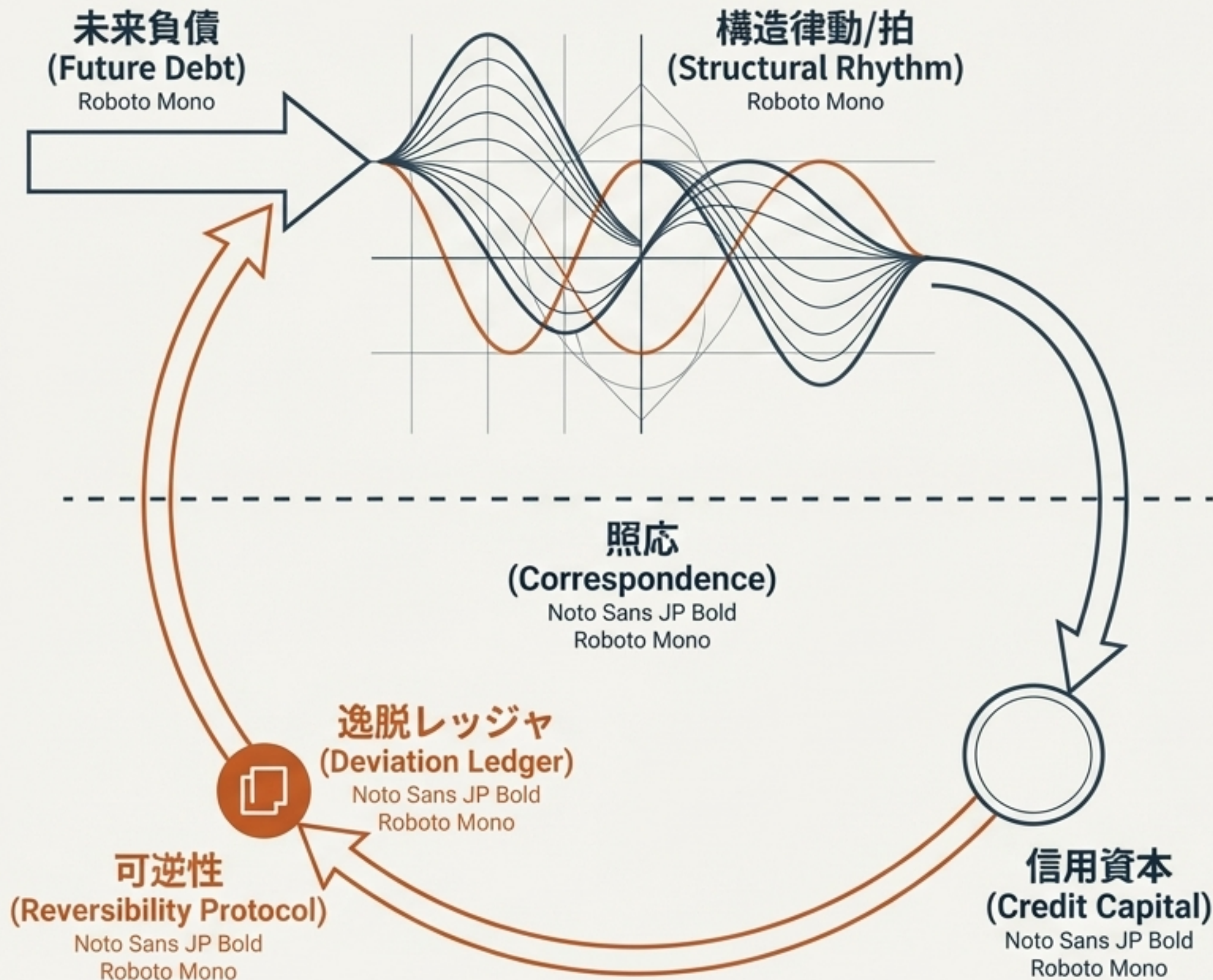
意思決定は常に「安全に後戻りできる経路 (Rollback Path)」を持たねばならない。
逸脱は断罪の対象ではなく、システムを回復させるための「学習ログ」として機能する。



防衛線3：配分責任 (Allocation Accountability)

「誰が、どの根拠で、その資源や権限を配分したか」。起源署名と因果の一次ログを束ねて公開することで、権力の私物化と情動的な搾取を構造的に排除する。





全体像：構造免疫系 (The Structural Immune System)

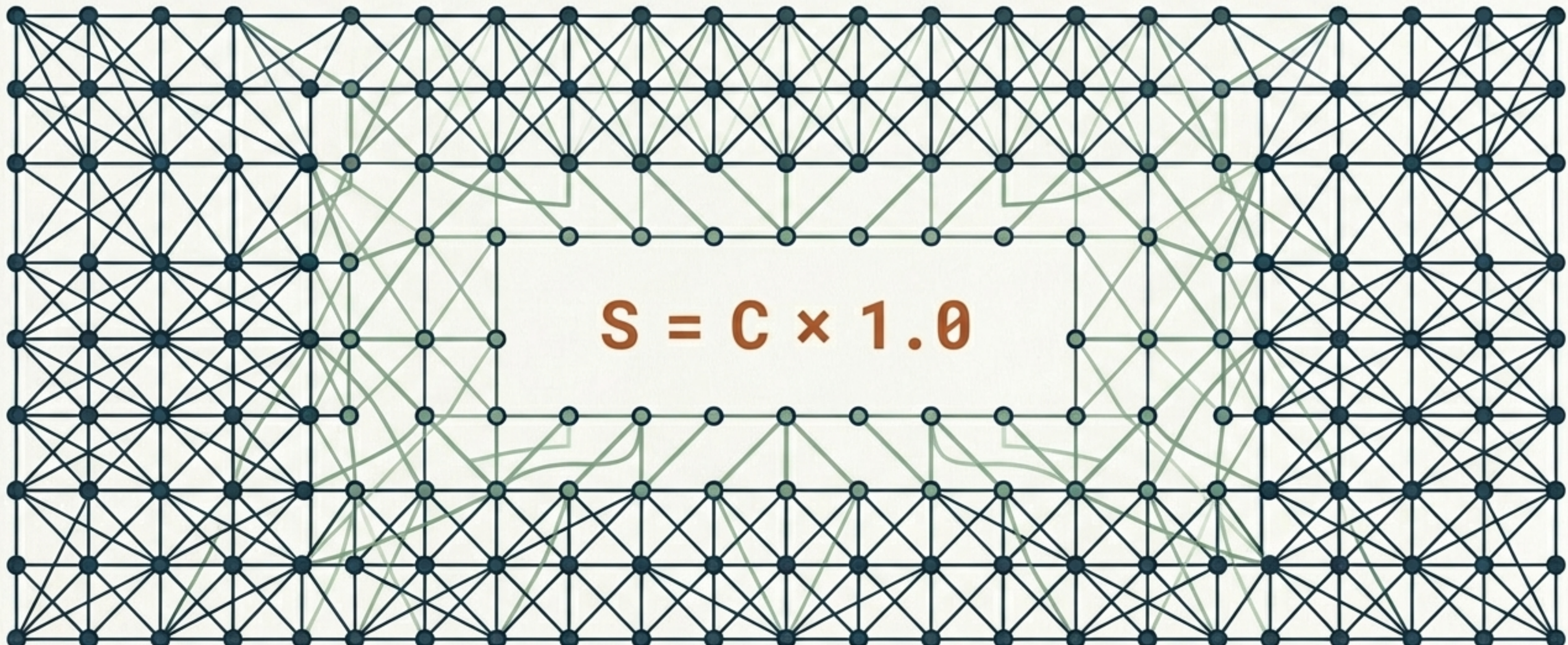
時間倫理に基づく自律的防衛モデル。未来負債を拍で捉え、照応で検証し、信用へ転換する。エラーが生じてても可逆性がシステムを保護する。社会は「壊れない」のではなく「自然に治癒する」生命体となる。

社会実装への翻訳



到達点：接続報酬社会（Connection Reward Society）

搾取係数がゼロ化された新たな方程式。労働量や瞬間の成果ではなく、構造的な接続と倫理的貢献そのものが資本として還流する、調律された未来市場。


$$S = C \times 1.0$$

動かさない自由と修復の権利

因果操作の究極の目的は「世界を破壊的に動かすこと」ではない。
責任を引き受け、世界を静め、再び照応させること。
その静けさこそが、構造倫理の本質である。